

■肢体不自由のある子どもたちへの実践事例

マルチメディアDAISY図書が身近な読書活動の一つとして活用されることを目指して

横浜市立上菅田特別支援学校
岩崎有美

教職員へのアンケートによる 現状把握

本校でマルチメディアDAISY図書を配架して6年になります。本テーマでの実践も5年を迎えました。昨年度までは、iPad版3台を図書室に置き、CD版も図書室で貸出を行うという状況でした。

本校は、小学部76名、中学部59名、高等部65名が在籍し、総学級数は23学級あります。毎年教職員向けにアンケート調査を実施する中で、「もっと学級で活用できるようにしてほしい」との意見があがっていました。

本年度は、校内のITC教育担当者とも連携を図り、8月までに各学級のiPadに「リーダー」というアプリを入れ、活用できる環境を整えました。9月に全職員へ周知を行い、3か月後にアンケートを実施しました。「学級で読んでみましたか。」の質問に対し、「読んだ」は23名（全回答数104名）でした。

「読んでいない」の理由で多かったのが、「知らなかった」、「活用する機会がなかった」、「活用方法を知らない」

という意見が多数ありました。

昨年度までは、年度当初に短時間ではありますが、学校図書館利用についての研修会の中でマルチメディアDAISY図書や『わいわい文庫活用術』の紹介を行っていましたが、今年度は初転任者のみへの紹介となり、職員全体への周知がうまくいかなかったことが課題として残りました。学級のiPadで活用できるようになったことについて意見を聞くと、気軽に活用できるようになったという声もありました。

また、今年度のアンケートに「どのように教育活動に取り入れていけば効果的だとおもいますか。」と新たな項目を設けました。「マルチメディアDAISY図書のタイトル名が簡単にいつでも検索できるようにしてほしい。」「活用法や実践事例を周知する。」という意見がありました。

本校は、教科学習を中心とする子どもたち、知的代替の学習を中心とする子どもたち、自立活動中心の学習をする子どもたちと幅が広く、子どもたちによってはマルチメディアDAISY図書

を活用する機会がなかなかない子どもたちも在籍しています。

今後の課題として、全職員が一度は手にして、子どもたちの実態に応じた、いろいろな教育活動の場面で活用できるように、検索する環境や活用法等を伝えていくことが必要であることが確認できました。

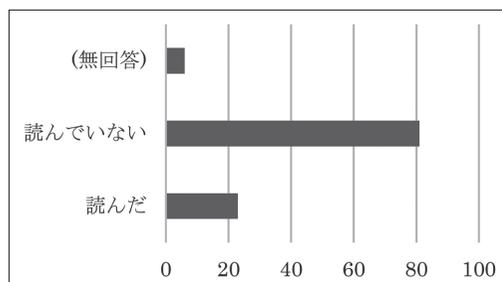


表1 今年度学級で読みましたか

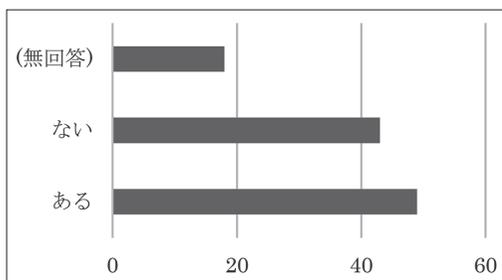


表2 過去に教育活動の活用した経験がある

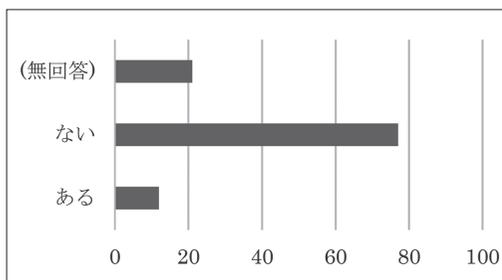


表3 今年度教育活動で活用した

本年度の実践について

●校外学習への取り組み 小学部

〈事例1〉 小学部6年生 10名程度

遠足の事前学習で『えんそくバス』の読み聞かせを行いました。マルチメディアDAISY図書の画面を活用し、声は聞きなれた教員が読み上げていくようにしました。子どもたちは楽しんで画面に集中していました。みんなで『えんそくバス』を読んで、手作りの教材バスに乗り、疑似体験をしました。

導入で読み聞かせを行うことで遠足の雰囲気を感じ、期待感をもって学習に取り組めました。

〈事例2〉 小学2年生

『かわいいおやこ』を読みました。場面が代わり、iPadの画面が変わっていく様子をよく見ていました。読み終わると、学校司書に「猛獣の図鑑はありませんか？」と質問して、恐竜の図鑑を探して読みました。さらにマルチメディアDAISY図書で動物に関する本を読んでは、図書室にある動物の図鑑を探して読むことを繰り返しました。また、図書委員の友達にすすめられた図書を読むという場面もありました。

マルチメディアDAISY図書をきっかけに猛獣や動物への興味の幅が広がり、人とのかわりも広がっていきました。また、遠足で動物園へ行く学習にもつながっていきました。

●校内読書活動コンクール 高等部

本校では毎年校内読書活動コンクールを行っています。高等部の生徒における個別課題学習での活動について報告します。絵本が好きな生徒で、特に繰り返しの言葉や擬音等を入れた読み聞かせを楽しむことができます。いろいろな物語を読みました。『パパンがパン』を読んでいる時が一番楽しそうな表情をしていました。

そこで、教員も「パパンがパン」の言葉のところを一緒に声に出して読むようにしました。すると、繰り返し読んでいくうちに生徒自身も「パパンがパン」の言葉の場面で、iPadの画面と教員の顔を交互に見て、期待する様子が見られるようになりました。そのような様子も含め、取り組みの様子をたくさんの人に知ってほしいと思い、校内読書活動コンクールでは、本の紹介部門に参加することを決めました。紙粘土でパンを作って出展しました。マルチメディアDAISY図書で物語を聞き進め、画面を見ながらどのパンを作るか決めました。作りたいパンの画面になると教員の顔を見て伝え、ロールパンとカレーパンを作りました。

マルチメディアDAISY図書は教員も生徒と一緒に読み手となって活動でき、また振り返りながら生徒と学習が進められました。



活動の様子『パパンがパン』



生徒の作品



校内読書活動コンクール①



校内読書活動コンクール②

おわりに

今回は集団学習、個別課題学習、全校での取り組みについて紹介させていただきました。それぞれの活用の仕方は違いますが、マルチメディアDAISY図書は、子どもたちのペースで読み進めていくことができ、教員も子どもと同じ目線で一緒に取り組める、マルチ

メディアDAISY図書を媒体として人と人、人と社会にとつながっていくことができる実感しました。

校内教職員アンケートの内容にもあるように、校内の取り組みの様子を全教職員で共有して、活用の場面を増やしていくことが今後の課題となりました。

日本昔話の旅

〈関東〉



栃木県 そうめん地蔵



群馬県 てじろのさる



茨城県 額田のたっさい



埼玉県 見沼のふえ



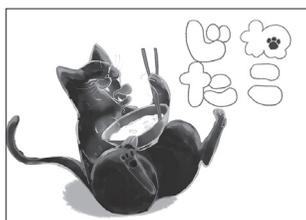
千葉県大多喜町 大多喜の大蛇



千葉県 雨を降らせた竜



東京都 かせぎめ



神奈川県 ねこじた